# 脳卒中連携パス検討ワーキンググループ

(平成28年度)

# 脳卒中連携パスWG報告書

広島県地域保健対策協議会 脳卒中連携パス検討ワーキンググループ 委 員 長 栗栖 薫

## I. 年間活動概要

広島県地域保健対策協議会が主体となって「広島 県共通脳卒中地域連携パス」が作成されて5年経過 して、実際に有効に活用されているかどうか、また、 その後の医療・社会情勢に対応可能となっているか, その結果が「患者を中心にした総合的医療・介護・ リハ・生活情報」として運用されているか、また、 新たに広島県・広島県医師会が進めている HM ネッ トなど、情報共有利用システムとの関係はどうなる のか、など多くの解決すべき問題点が出てきた。そ こで、再度、関連の地対協を立ち上げ具体的検討に 入ることになった。前回が急性期、亜急性期が中心 であって、生活期の必要な情報が十分に反映されて いないことを鑑み、亜急性期以降の委員も参画して 頂き、「出口が見えて、最初から最後まで通用するパ ス」の作成を目指すことになった。新たに作成する のではなくて、広島県共通脳卒中地域連携パスを改 変することを主体にしてすすめることとし、年内完 成を目指した。年度末に開催される関連のケアマ ネージャー会議などで周知を行い、最終的には、平 成29年4月からの運用を目指すこととした。一方 で、共通運用されるパスを「ひろしま脳卒中地域連 携パス」と命名し、「地対協作成」とした。

#### Ⅱ. 脳卒中連携パスのみなおし

各委員より、地域の実情などについて意見を求めたところ、「それぞれのパスが地域性を持って発展をしてきており、いい形で運用されている地域もある。また実際に運用する施設の数や施設で働いているスタッフの人数を踏まえ、あまり多くの管理項目があると負担になることもあるので、考慮すべきである」「システムありきで連携パスの仕様を検討するのではなく、どのように運用するか検討しながら進めることが重要である」という意見があった。

また、安佐医師会を中心に稼働している脳卒中連携パスは2年前から広島県共通脳卒中地域連携パス(参考資料1)に移行して運用を行っており、備後脳卒中連携パスも県共通パスに移行する予定である。そのため、各地区のパスをマージして検討するのではなく、現行の広島県共通脳卒中地域連携パスをブラッシュアップして改版することとした。

回復期,維持期(生活期)については,担当である職種が何を必要としているか考慮して,項目の精査を行う必要があるため,広島県地域包括ケア推進センターより関連職種のメンバーを紹介してもらい,地対協より正式に委員就任依頼を行うこととした。

急性期については、医師中心に項目を精査することとし、項目の精査について検討を行うこととなった。

# Ⅲ. 具体的到達目標の設定とタイムシュケジュール

多くの関連脳卒中パスが運用されているが、亜急性期、慢性期まで実際伝わっていないことが多いことが指摘され、最終的な生活期での必要事項に帰結するような基本情報を最初から入れて、生活期まで利用可能することで一致した。その結果、基本情報の項目の見直しと、専門過ぎない表現の導入、逆に慢性期になってもほしい急性期の情報を入れるなど、具体的な検討が進んだ。どの職種がどの段階からパスに入っても最終の生活期での状態把握に繋がることを主旨とした表現と内容にすることを最終到達目標に挙げた。

また、年内完成を目指して、進行状況にもよるが、 月1回の開催を目処に日程調整を行った。

#### Ⅳ. WG の立ち上げと討論・開催の経緯

第1回: 平成28年5月30日(月) 脳卒中連携パスWG 第2回:平成28年7月19日(火) 脳卒中連携パス回復期以降検討WG

第3回:平成28年7月27日 (水) 脳卒中連携パスWG

第4回:平成28年8月24日(水) 脳卒中連携パス合同WG

第5回: 平成28年9月26日(月) 脳卒中連携パス合同WG

第6回:平成28年10月26日 (水) 脳卒中連携パス合同WG

第7回:平成29年1月5日(木) 脳卒中連携パス合同WG

このほか適宜、メール審議にて、議事録確認、意 見収集と変更・修正を行った。

上記のように、1回目のWGで、地域包括ケア推進センターからの委員參加を決定したので、その趣旨を該当者にまず説明し(2回目)、3回目以降は合同開催とした。年内に改訂パスの骨子は決定されたが、細かい部分修正は適宜メール審議などで行った。また、個人情報取扱に関して、同意・撤回に関する文書など新たに用意して対応できるようにした。

### ∇. 最終バージョン

資料に上記経過にて得られた最終バージョンを掲載する。思い切って項目を減らしスリムになった反面,慢性期から必要とされている項目の追加など

行った結果,掲げる内容となった。具体的な検討については,各委員がそれぞれの領域・立場から系統的また詳細な検討を行った成果である(参考資料2)。

## W. 周知徹底と開始

年度末まで、各地域、あるいは二次医療圏などで開催される地域の会、ケアマネージャーの会、などで、適宜説明をして頂いた。必要に応じて、当委員会の委員が参画して説明会を支援した。平成29年4月からの運用可能として、上記最終バージョンを広島県医師会の関連サイトhttp://citaikyo.jp/pass/nousotchu.htmlに公表し、ダウンロードして使用出来るようにした。

## Ⅷ. 今後の問題点

ひろしま脳卒中地域連携パスを全県下に展開した場合に、誰のために、何のためにパスを運用するのか引き続き検討することとした。印刷物、エクセルでの利用も可能だが、HM ネットなど情報共有利用システムとの連携、将来的なデータ管理・運用についての検討も継続となった。

## 参考資料

- 1) 広島県共通脳卒中地域連携パス(旧バージョン)
- 2) ひろしま脳卒中地域連携パス

- 中公 然		自宅または施設での家庭医	初份	1. 在宅で生活できる, 2. 神経機能を維持できる。 3. 市政   セントラ 国勢を増生 z	11:	Oたがおいらは対しする 評価(由圧測定・由液検査など) をします	〇薬は継続して服用しましょう 💀 💽	是一		〇社会生活・家庭生活へ復帰			〇自宅への生活 〇(必要時)通所リハビリ等があります.		2	○施設での維持期リハドリ・長期療養となります. ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●		な学業指導があります	〇食事運動療法の指導もあります。				女今後の治療についてかかりつけ医から   説明があります	_	
広島県共通脳卒中地域連携パス 「監雑報・「関出者・「ヘキ電下出者・・」 ファクをもの関係日	1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	リハビリテーション・回復期病院	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	1. 自宅退院あるいは施設入所の準備ができる。 1. ルデーの効果は指数ステの準備ができる。 2. コンボーの効果が指数なカキ	· H	(必対に)でして、 発生のこの疾患が、必りのソ・リン・	○脳卒中再発予防の薬による治療を継続します。 (真血圧 難原病 脂質異覚症 小尾細軸・小臓病)	○術後管理あります  ☆別	〇リハビリを継続します. ☆自宅での生活方法を指導します. 〇自宅を想定したリハビリを ☆ (必要時)家屋評価があります. 行います.	4		光度 (学	継続して積極的なリハビリ ・	4	リハビリ病院でリハビリ再評価はされます。			〇自分でまたは介助で食事がとれます。 ☆学養指蓮があります	〇嚥下訓練	〇介助ままたは自分でお風呂やシャワーが入れるようにします。	O米能に広じアベッド配や	トイレで排泄ができるようにします。	女医師から入院中の治療計画 のKR ☆鬼院後の生活について説明があります。 について説明があります ☆ケアマネージャーと必要かサードスを	THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO	
株本などの浦名に	急性類	急性期病院	入院   退院日(14~60日)	1 神経症状が安定している。 2 離床・リハビリが開始できる。 9 今事・光等48mかホま 2	及事・不成が用名におる。	超音波の	○点滴や薬による治療を行います. 再発の恐れがあります ○※●主統が※悪・セスニーンが 再発の恐れがあります	135 J. W. C. A. C.	開始します」O症状安定した時点で、回復期コースを考えます. 以下の3つのコースに分けられます.	□理学療法士 □軽症:自宅生活まで □	□作業療法士 □言語聴覚士 □言語聴覚士	1 ×	口中等度:強種リハビリ盟治		口重症:治療優先・ベッドサイドリハピリ			〇状態に応じて食事がとれます。 〇状態によって鼻から管: な学春指道があります		李素子.		(人・アー・プログラング・アンドリング・アンドリング・アンドル 株当 にます。 トイレ な 禁制できます・	女医師から病気と入院中の ☆転院の準備について ☆ ※ 登計画について ☆ はいませい ます いっぱん ります	TH.	*この計画はめやすであり、病状によって変更になることもあります。
の方面が	<b>新</b>	場所	口数	産成目標	长	K H	治療·薬剤		リハビリ									争		紫	未	Ĭ	説明·指導		

# 広島県共用 脳卒中地域連携オーバービューパス

患者名:	性別 <u>———</u> 生年月日:		がの状態 身長 ( ) cm ( ) kg
診断名: □ 脳梗塞 □ 脳出血	患者住所: 〒	食事	( 移動能力 ( )
	電話番号: ( )	) 整容 緊急連絡先: (	( 認知症 ( )
□ くも膜下出! 発症日: (	<b>恤</b> 職業: ( ***********************************	)	E状 ( ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) )
手術歴:	)主たる介護者:(	)感染症(	,
	急性期 (施設名:	回復期 (施設名:	維持期 (施設名:
入院日 / 退院日	( / )	( / )	( / )
主治医 / 看護師 PT / OT / ST			
MSW / ケアマネージャー		( / - )	
合併症	□ 脳卒中再発,神経症状悪化 □ 肺炎 □ 転倒転落 □ 心不全 □ 概創	□ 脳卒中再発,神経症状悪化 □ 肺炎 □ 転倒転落 □ 心不全 □ 褥創	□ 脳卒中再発,神経症状悪化 □ 肺炎 □ 転倒転落 □ 心不全 □ 褥創
I // III	□ 尿路感染 ( )	□ 尿路感染 ( )	□ 尿路感染 ( )
基礎疾患	□ 高血圧 □ 糖尿病 □ 高脂血症 □ 心房細動 □ 心疾患	□ 高血圧 □ 糖尿病 □ 高脂血症 □ 心房細動 □ 心疾患	□ 高血圧 □ 糖尿病 □ 高脂血症 □ 心房細動 □ 心疾患
- T.	(	( )	( )
	□ 頭部CTまたはMRI □ 胸部Xp □ 血液検査 □ 降圧薬 □ 糖尿病薬( )	□ 降圧薬 □ 糖尿病薬( )	□ 降圧薬 □ 糖尿病薬(
	□ 脂質低下薬 □ 抗血小板薬 □ 抗けいれん薬	□ 脂質低下薬 □ 抗血小板薬 □ 抗けいれん薬	□ 脂質低下薬 □ 抗血小板薬 □ 抗けいれん薬
	□ 抗凝固薬 INR目標値 ( )	□ 抗凝固薬     INR目標値       □ 水頭症     □ シャント     □ 気管切開管理	□ 抗凝固薬 INR目標値 ( )
治療の継続	□ 胃管管理 □ 胃ろう管理 □ 褥創管理	□ 胃管管理 □ 胃ろう管理 □ 褥創管理	□ 胃管管理 □ 胃ろう管理 □ 褥創管理
	□ 入院中の関連科受診 □ 眼科 □ 皮膚科 □ 歯科 □ 耳鼻科	□ 入院中の関連科受診 □ 眼科 □ 皮膚科 □ 歯科 □ 耳鼻科	□ 入院中の関連科受診 □ 眼科 □ 皮膚科 □ 歯科 □ 耳鼻科
	□ その他( 担当医( )	□ その他( )	口 その他(
	担当医( 担当医( しょう	担当医( しまっぱい しょう という という という という という という という という という とい	担当医( しまっと しまっと しまっと しょう
	[目 標] 一般状態の安定化、早期離床 ADL獲得	[目 標] 日常生活能力の拡大、社会復帰	[目 標]・ADL拡大と維持、再発防止
治療の	[結果と対応]	[結果と対応]	[結果と対応]
目標と結果			
( 地域連携パスコース説明 )			
	(1ヶ月目または急性期退院時に評価)	(発症6ヶ月目または回復期退院時に評価)	(発症1年目に評価)
	mRs Barthel Index /100	障害老人の日常生活自立度 FIM( /126) mRs Barthel Index /100	障害老人の日常生活目立度 mRs 嚥下障害( )
	運動麻痺( )	認知症老人の日常生活自立度 運動麻痺( )	認知症老人の日常生活自立度
	│ MMT(右上肢 右下肢: ) │ MMT(左上肢 左下肢: )	MMT(右上肢	□ 高次脳機能障害( 主治医評価
	Br.Stage(右上肢:     右手指     右下肢       Br.Stage(左上肢:     左手指     左下肢	MMT(左上肢     左下肢:     )       Br.Stage(右上肢:     右手指     右下肢	
障害評価	□ 運動失調	Br.Stage(左上肢: 左手指 左下肢 )	
	□ 知覚障害( ) → ( ) □ 高次脳機能障害( )	□ 運動失調       □ 知覚障害( ) → ( )	リハスタッフ
	□ 失語 → ( )	□ 高次脳機能障害( )	TOWN TO THE TOWN T
	□ 構音障害( ) □ 嚥下障害 □ 神経因性膀胱→□ 尿カテーテル	□ 失語 → (       )         □ 構音障害(       )         □ 嚥下障害	
	11 4 E mai 12 10 3 10 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	□ 神経因性膀胱→□ 尿カテーテル	
日常生活評価	┃	退院時 ( // 19 ) 点	退院時 ( / 19 ) 点
·床上安静の指示 ·手を胸元まで持ち上げられる			
・寝 返 り			
・起き上がり ・坐位保持			
·移 乗 · 移動方法			
・口腔ケア			
·食事摂取 ·衣服着脱			
・伝 達 ・診療・療養上の指示が通じる			
·危険行動	NR Bright	\G @^n+	NB Bright
ADL	退院時   食事	退院時 食事	退院時 食事
	カリー量( )kcal 塩分( )g	カロリー量 ( )kcal 塩分 ( )g	カリー量( )kcal 塩分( )g
	□ 常食 □ 軟食 主食()	□ 常食 □ 軟食 主食()	□ 常食 □ 軟食 主食()
	副食(□ 治療食 □ 流動食	副食(□ 治療食 □ 流動食	副食(□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )
	移動 ( ) ( )	移動 ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( ) ( )
	排泄 ( )( )	排泄 (	排泄(
	□ 介護保険 □ 在宅希望 □ MSWケースワーカー介入	□ f77°5ン作成 ( ) □ 家屋調査 ( )	□ かかりつけ医 ( ) )
福祉介護支援	□ 介護保険申請 申請日	□ 家屋改修 ( )	□ ケアマネジャー ( )
	□ ケアマネジャー ( □ 家屋調査 (	□ 介護指導     ( )       □ 担当者会議     ( )	訪問看護(    )

# 広島県共用 脳卒中地域連携パス (急性期)

患者ID: 患者氏名: 医療機関名:	生年月日:     年     月     日     発症日:     H     年     月     日       様     性別:     年齢:     歳     入院日:     H     年     月     日       退院日:     H     年     月     日
主治医: 看護師:	理学療法士: 作業療法士: 作業療法士: 言語聴覚士: 言語聴覚士: MSW:
発症前状態	mRS:( ) / / / / / / / / / / / / / / / / / /
経過	発症 ~ 2ヶ月(急性期)
項目	
診断・合併症 (主治医)	脳出血 (
基礎疾患 (主治医)	高 血 圧 (
治療の継続(主治医)	頭部CTまたはMRI (
	[目 標]・一般状態の安定化、早期離床、ADL獲得
治療の 目標と結果 (主治医)	[結果と対応]
障害評価	(1ヶ月目または急性期退院時に評価)
(主治医)	意 識: JCS( ) 重症度: NIHSS( )
障害評価 (リハスタッフ)	mRs: (
	発症前の状態 急性期退院時 急性期退院時
日常生活評価 (看護師)	A
福祉介護支援 (MSW, 看護師)	↑   方護保険

# 広島県共用 脳卒中地域連携パス (回復期)

患者ID: 患者氏名:	生年月日: 年 月 日 ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## #	発症日: H 年 月 日
医療機関名:	大	入院日: H 年 月 日 退院日: H 年 月 日
主治医:	理学療法士:	療法士:      言語聴覚士:
看護師:	MSW:	
発症前状態	mRS:( ) 介護度:( ) )	感染症( <mark>************************************</mark>
項目	2週 ~ 07月 (	四後朔/
∧ /¥.±	脳卒中再発,神経症状悪化 (	し ( あり ) 転倒・転落 ( なし ( ) あり )
合併症 (主治医)	心不全 (OなしOあり) 褥創 (OなしOあり	) 尿路感染 ( <mark>O なし の あり</mark> )
	その他 ( )	
基礎疾患	高血圧( <mark>OtlOth</mark> ))糖尿病( <mark>OtlOt</mark>	
(主治医)	高脂血症 ( Otl Oth	,
	心 疾 患 (	) <b>)内服 ○ インスリン</b> ) 脂質低下薬 ( ○ なし ○ あり)
	抗血小板薬 ( つなし) あり ) 抗凝固薬 ( つなし (	
	抗けいれん薬 ( O なし O あり )	<mark>すのプ</mark> ) (INN日保恒・
治療の継続	水頭症 ( 〇なし〇あり ) → シャント (〇なし〇あり	)
(主治医)	胃管管理 ( 〇なし〇あり ) 胃ろう管理 (〇なし〇	
	入院中の関連科受診( 〇 なし 〇 あり ) □ 眼科 □ 皮膚科	
		( 〇なし 〇あり )
	[目 標]・日常生活能力の拡大、社会復帰	
治療の	[結果と対応] ○ A 自宅生活可能なまでの改善 →	ケアプラン作成、かかりつけ医へ情報提供
目標と結果 (主治医)	○ B 介護サービス下でも自宅生活困難 →	介護保健施設等への連携
	○ C 機能改善乏しく、継続した医療行為が必要	→ 療養型病床への連携
	(発症6ヶ月目または回復期退院時に評価)	(422.)
	障害老人の日常生活自立度 ( ) FIM( /1/2 ) 認知症老人の日常生活自立度 ( ) mRs( )	26 ) Barthel Index( /100 )
	運動麻痺:(〇なし〇右 〇左 〇両側 )	
	MMT(右上肢: 右下肢: 左上肢:	左下肢:
障害評価	Br, stage(右上肢: 右手指: 右下肢:	左上肢: 左手指: 左下肢:
(1107hu7)	運動失調: ( ○ なし ○ あり ) 知覚障害: ( ○ なし ○ 右側 ○ 左側 ) → ( ○ 脱失	○ 鈍麻 ○ 異堂感覚
	高次脳機能障害(記憶障害、失行失認など)(	
	失 語:( <mark>○なし ○あり</mark> ) → ( <mark>○運動性 ○感覚</mark>	
	構音障害: ( 〇なし 〇 軽度 〇 重度 )	
	嚥下障害: ( O なし O あり )	O +n
	神経因性膀胱 (	)
	□復州返院時 ·床上安静の指示 (	)·移動
	·手を胸元まで持ち上げられる(	*   **
	·寝返り(OできるO何かにつかまればできるOできない	
	·起き上がり ( つできる	カロリー量 (
	·坐位保持( 〇できる 〇 支えがあればできる 〇できない )	塩分 、 「一 <del>世命</del>
口光生活示师	<ul> <li>・移 乗( ○できる ○ 見守りや一部介助が必要 ○できない</li> <li>・移動方法( ○ 介助を要しない移動 ○ 介助を要する移動</li> </ul>	
日常生活評価 (看護師)	・口腔ケア( 〇できる 〇一部介助 〇できない )	副食
	・食事摂取( 介助なし () 一部介助 () 全介助 ()	治療食
	・衣服着脱( 介助なし 一部介助 全介助	
	・伝 達 ( ○できる ○できる時とできない時がある ○できない	
	<ul><li>・診療・療養上の指示が通じる( ○はい ○いいえ )</li><li>・危険行動( ○なし ○あり</li></ul>	□流動食 ( ) ( ○経管 ○胃ろう )
	合計点 = 0 / 19	·排 泄 ( )
	7	(
	□ ケアプラン作成 ( ) □ 家	屋調査(
		護指導(
福祉介護支援	□ 担当者会議 (	<mark>↑あり</mark> ) MSWケ-スワーカー介入( <mark>(↑なし)(</mark> あり)
(MSW, 看護師)		月 日
	 キーパーソン (	主たる介護者(
	緊急連絡先 ( )	<b>□</b> ケアマネシ・ャー ( )

# 広島県共用 脳卒中地域連携パス (維持期)

患者ID: 患者氏名:	生年月日:
施設名:	完了日:
主治医: 看護師:	理学療法士: 作業療法士: 作業療法士: 言語聴覚士: 言語聴覚士: MSW: MSW: The state of the state o
発症前状態	mRS:( ) 介護度:( ) 感染症( )
経過 項目	6ヶ月以降( 回復期→維持期 )発症1年後評価
合併症 (主治医)	脳卒中再発,神経症状悪化 (
基礎疾患 (主治医)	高 血 圧 (
治療の継続 (主治医)	降圧薬 (
治療の 目標と結果 (主治医)	<ul> <li>[目標]・ADL拡大と維持、再発防止</li> <li>[結果と対応] ○ A 自宅生活可能なまでの改善 → ケアプラン作成、かかりつけ医へ情報提供</li> <li>○ B ADLの低下 → ケアプラン変更、リハビリ施設等への連携</li> </ul>
障害評価 (主治医) (リハスタッフ)	(発症1年目 に評価)         障害老人の日常生活自立度 (認知症老人の日常生活自立度 (認知症老人の日常生活自立度 (記憶障害、失行失認など)(なしなり)         主治医評価:       リハスタッフ:
日常生活評価 (看護師)	発症一年目       ・床上安静の指示(
福祉介護支援 (MSW, 看護師)	□ かかりつけ医 ( □ ケアマネジャー ( □ 大田

#### 広島県地域保健対策協議会 脳卒中連携パス検討ワーキンググループ

委員長 栗栖 薫 広島大学大学院脳神経外科学

委 員 青木 志郎 広島大学大学院脳神経内科学

磯部 尚幸 JA尾道総合病院

牛尾 剛士 広島県医師会

大田 泰正 脳神経センター大田記念病院

岡本 隆嗣 西広島リハビリテーション病院

木矢 克造 県立広島病院

黑木 一彦 JA広島総合病院

郡山 達男 広島市立リハビリテーション病院

豊田 章宏 中国労災病院

中西 敏夫 広島県医師会

西野 繁樹 広島市立広島市民病院

浜崎 理 市立三次中央病院

細見 直永 広島大学病院

山下 拓史 広島市立安佐市民病院

勇木 清 東広島医療センター

渡辺 高志 寺岡記念病院

#### 広島県地域保健対策協議会 脳卒中連携パス回復期以降検討ワーキンググループ

委員長 栗栖 薫 広島大学大学院脳神経外科学

委 員 牛尾 剛士 広島県医師会

岡本 隆嗣 西広島リハビリテーション病院

中西 敏夫 広島県医師会

名越 靜香 広島県介護支援専門員協会

濵本 千春 YMCA 訪問看護ステーションピース

廣山 初江 広島県介護福祉士会

村上 重紀 公立みつぎ総合病院

元廣 緑 広島市口田地域包括支援センター